



ふじかわ ちえ
藤川 千絵さま
東大文科一類1年
(海城)
ふじかわつかき
藤川 司さんのお母さま



中 学受験が終わってすぐ、友人から「グノーブルはすごく良い」と聞いておりましたので説明会に参加しました。先生方のお話を伺っていて、「ここなら間違いない」と私も確信しました。

私どもは夫婦共々、子どもを教える仕事をしていますので、教えることにどれだけのエネルギーが要るかもよくわかります。グノーブルの先生方の学問に対する好奇心や情熱、生徒に対する愛情、一人ひとりを見る細やかさが並大抵のものではないことも理解しているつもりです。先生方は、一切手を抜くことなく、学びの楽しさや適切なアドバイス、子どもを細やかに見ることに真摯に取り組んでおられます。「グノーブルに息子をお任せして間違いなかった」という思いは今でも変わりません。

息子は通塾した6年間で半数以上の先生から教えていただきました。この座談会に参加するにあたって、どの先生が特に良かったか息子に聞いたのですが、「どの先生も素晴らしかった」とははっきり答えが返ってきました。グノーブルの文化・伝統というものがあるのでしょうか。これは素晴らしいことだと思います。

息子は通塾した6年間で半数以上の先生から教えていただきました。この座談会に参加するにあたって、どの先生が特に良かったか息子に聞いたのですが、「どの先生も素晴らしかった」とははっきり答えが返ってきました。グノーブルの文化・伝統というものがあるのでしょうか。これは素晴らしいことだと思います。



さとう みどり
佐藤 緑さま
東大理科一類1年
(筑波大学附属駒場)
さとう ゆづき
佐藤 祐希さんのお母さま



息 子は、勉強を楽しみながらコツコツやって、グノーブルの先生に質問をして授業を受けていれば大丈夫だろうというスタンスがずっと続いていたようです。授業が本当に楽しいということは、迎えに行った帰りの車の中で、息子は興奮さめやらぬ状態で話してくれていました。それは私にとって、とても嬉しいことでした。「受験は辛い」というイメージがありますが、「楽しい!」という熱量のおかげで息切れせずに最後まで、知的好奇心に押されるように走り続けることができたのだと思います。

環境づくりにも感謝しています。予備校のような何百人というような環境ではなく、かといって個別指導とは違って競争意識というものがグノーブルにはあります。これは受験生にとって非常に大きなことではないでしょうか。グノーブルの物理クラスのメンバーとは今でも非常に仲が良く、受験期から、試験対策などを相談しながら決めていたようです。まぎれもなく大学受験を前提とした塾でありながら、深く交わる仲間ができる。そういった環境であったこともとてもありがたかったです。

環境づくりにも感謝しています。予備校のような何百人というような環境ではなく、かといって個別指導とは違って競争意識というものがグノーブルにはあります。これは受験生にとって非常に大きなことではないでしょうか。グノーブルの物理クラスのメンバーとは今でも非常に仲が良く、受験期から、試験対策などを相談しながら決めていたようです。まぎれもなく大学受験を前提とした塾でありながら、深く交わる仲間ができる。そういった環境であったこともとてもありがたかったです。

子どもたちの変わらぬ信頼感と手応え。 安心してグノーブルに任せられました。

グノーブル11期生 保護者からのメッセージ



みかみ ゆみ
三上 由美さま
東大理科一類1年
(早稲田)
みかみ ふかし
三上 玄さんのお母さま



グノーブルで英語を学び、世界中の情勢や報道を英語でわかるようになり、「生きた英語」「深い教養」を身につけさせていただいたと、本人は感じているようです。それは、毎年同じような内容のテキストを使い回しするのではなく、先生方ご自身が、常に“今”を見つめてブラッシュアップした教材があるからこそ。そこに加えて、先生ご自身に伝えたい思いがあるからなのだろう

と思います。

グノーブルで密度の濃い、充実した時間を過ごした経験は、息子に大事な気づきを与えたと思います。彼は今、大学で様々な才能に囲まれて、色々なものを一生懸命に勉強したいと感じているところです。「夢中になれるものには時間を忘れて取り組む」という姿勢を、グノーブルで学べたことは大きな財産になっていると思います。息子が授業を楽しむことができたのは、先生ご自身が英語が好きで、それを生徒に教えることも楽しんでおられた、そんな気持ちが伝わったから授業も楽しかったのでしょう。それを共有したくて、息子は一生懸命グノーブルを同級生に勧めて広めようとしていたようです。



いんま みえ
因間 美恵さま
東京医科歯科大医1年
(桜蔭)
いんま あかり
因間 朱里さんのお母さま



娘 はグノーブルから帰ってきた後はいつも興奮状態で、授業がどれだけ楽しかったのかを熱く話してくれました。その姿は、英語の勉強に行っているのではなく、英文で教養を身につけているという印象が非常に強かったです。受験のための塾なのに活き活きと通っている娘の姿を見たり、話を聞いたりすることができ、私も非常にうれしかったです。

高1、高2で英語の土台を作っていただき、高3でさらに大きく伸ばしていただき、英語が“得意な教科”から“大好きな言葉”に変わったとも表現していました。当初、彼女にとって、英文を英文のまま理解するということが、ぼんやりしたイメージでしかなかったようですが、その力がいまになって活かされているようです。また、受験テクニックを身につけるということではなくて、教養を身につけて、語学の楽しさが分かる授業を受けられたので、大学でも第二外国語がとても面白いそうです。本当にレベルが高い指導をしていただいたのだと親として大変感謝しています。